

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】洲本市バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
13	2006.5.31			兵庫県	洲本市	50,030	182.47
構想の要約		良質なたい肥による土づくりが支える野菜産地の形成、菜の花エコプロジェクトの推進、バイオメタンガスコージェネシステム導入検討等により、人と自然が豊に調和する、環境立島『公園島 淡路』をめざす。					
構想に盛り込まれた事業		1 良質なたい肥の生産 ・大規模な共同堆肥化施設である洲本エコセンター(仮称)の整備 2 菜の花エコプロジェクト 3 バイオメタンガスコージェネシステム					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	○
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材			
廃食用油	○	果樹剪定枝			
水産加工残さ		竹材			
製材工場等残材		その他()			
建設発生木材					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など					
その他()					

利用するバイオマス変換技術					
マテリアル利用のための変換技術			エネルギー利用のための変換技術		
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○		バイオガス化(メタン発酵)		○
飼料化	○		直接燃焼		
バイオマスプラスチック製造			ガス化		
その他()			炭化		
			固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)		
			バイオディーゼル燃料化		○
			バイオエタノール化		
			その他()		

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.07.27	農村振興局助成措置:平成19年度、洲本市、菜種、廃食用油バイオディーゼル燃料製造施設の整備

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標

(バイオマスタウン構想書からコピー)

(1) 利活用目標

○ 廃棄物系バイオマスの利用率：90.0%

家畜排せつ物については、固形分はたい肥化利用、液分は液肥利用又はバイオガス生成への利用を図ることにより全量利用を継続するとともに、たい肥化・液肥利用については環境保全を重視した利用を行う。道路街路樹の剪定材などの木質系バイオマスについては、発酵させた上で家畜排せつ物のたい肥化を促進するための水分調整剤として利用する。食品残渣については焼却されている部分も多いが、たい肥化利用を促進し、廃棄物系バイオマス全体として90%以上の利活用を実現する。

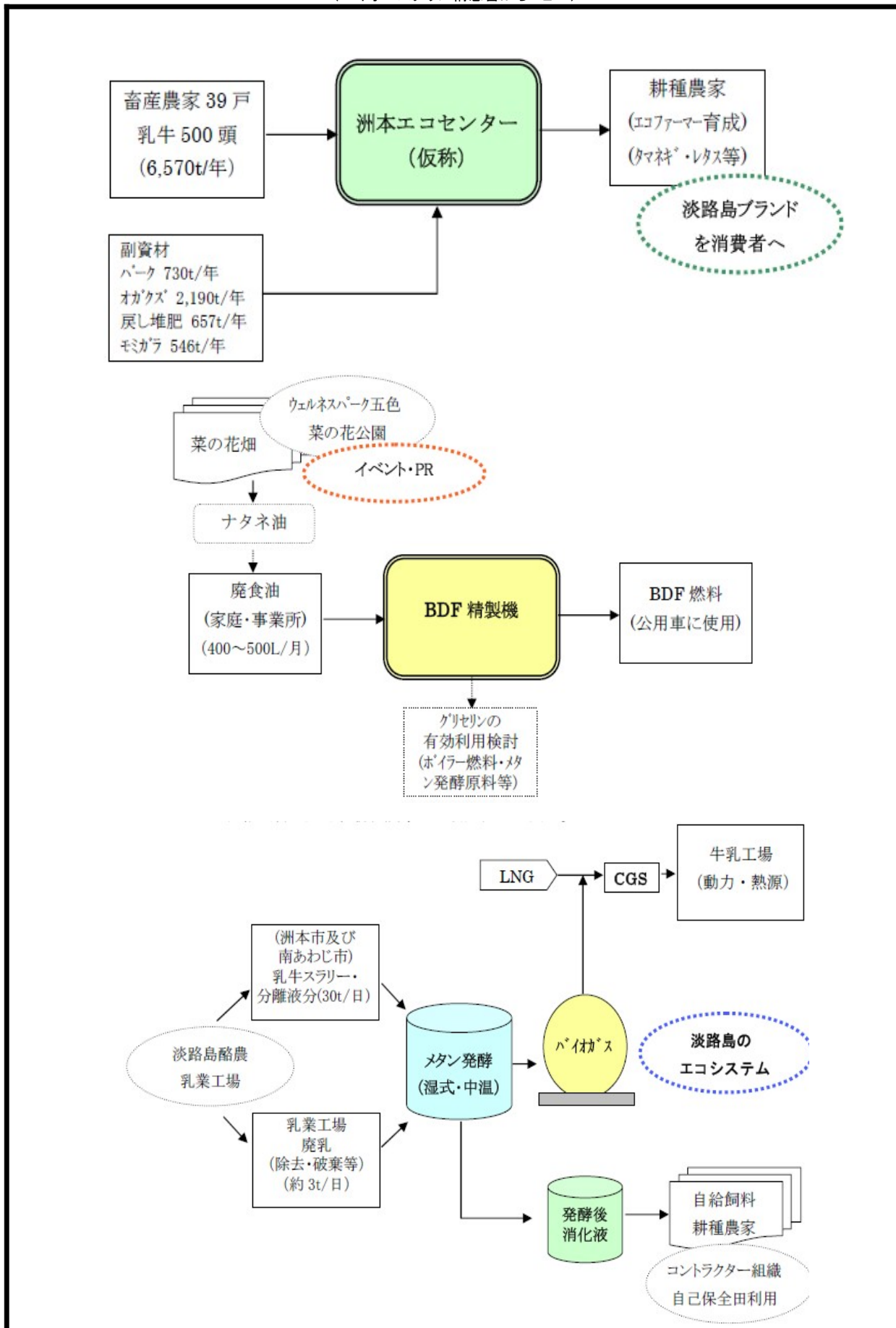
○ 未利用系バイオマスについて

稲わらについては、繁殖和牛農家が多い地域では飼料として利用されているが、すき込まれているものも多いことから、飼料としての利用を推進する。また、籾殻については敷料として利用するほか、家畜排泄物のたい肥化を促進するための水分調整剤として利用し、未利用系バイオマスの40%以上の利活用を実現する。

なお、近年、本市域では間伐実績等がないため把握の困難である間伐材・林地残材等の木質バイオマスの利活用についても、今後のタウン構想推進にあたっては念頭に置き、推進することを目標とする。

バイオスタウン構想概要図

(バイオスタウン構想書からコピー)



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)